

TOKYO COLLEGE

共に考える。未来のかたち Shaping a Shared Future Together

東京大学に新しく設立された「東京カレッジ」。

世界の第一線で活躍する研究者や知識人を招き、市民の皆さんと一緒に未来社会の様々な側面について考える場を作ります。
Tokyo College aims to generate new knowledge to contribute to the creation of an inclusive society and spark deeper public engagement with the University.

東京カレッジ・シンポジウム Tokyo College Event

「世界」とは何か？

哲学・歴史・文学・宗教 をから から 考え直す

2019.7.10(水)

東京大学・山上会館大会議室

(本郷キャンパス)

16:30 開場 17:00 開演 19:00 閉会

[司会] 伊達 聖伸(総合文化研究科)

[パネリスト] 歴史学: 羽田 正(東京カレッジ)

哲学: 中島 隆博(東洋文化研究所)

文学: 沼野 充義(人文社会系研究科)

宗教学: 藤原 聖子(人文社会系研究科)



「世界」とは何か？

哲学・歴史・文学・宗教 をから考え直す

未来の「世界」を考えよう

ITに代表される科学技術が飛躍的に発展し、政治、経済、文化、環境など多くの側面でグローバル化が急速に進行しています。この激動の時代に、私たちが時宜に合った判断を下し適切に行動するためには、従来の知の体系や枠組みだけにとらわれず、新たな視点から人間とその社会の動きや特徴を注意深く見つめ、理解し直すことが必要です。

今日、歴史学、宗教学、哲学、文学といった人間とその社会を理解するための基礎的な学問分野において、「世界」という視点に立つ研究が目立つようになってきた理由の一つは、そこにあります。しかし、同じように「世界」を意識しながらも、これらの学問分

野の垣根を越えた交流はまだ十分とは言えず、結果として、新たな知の体系の構築という段階には達していないようにみえます。

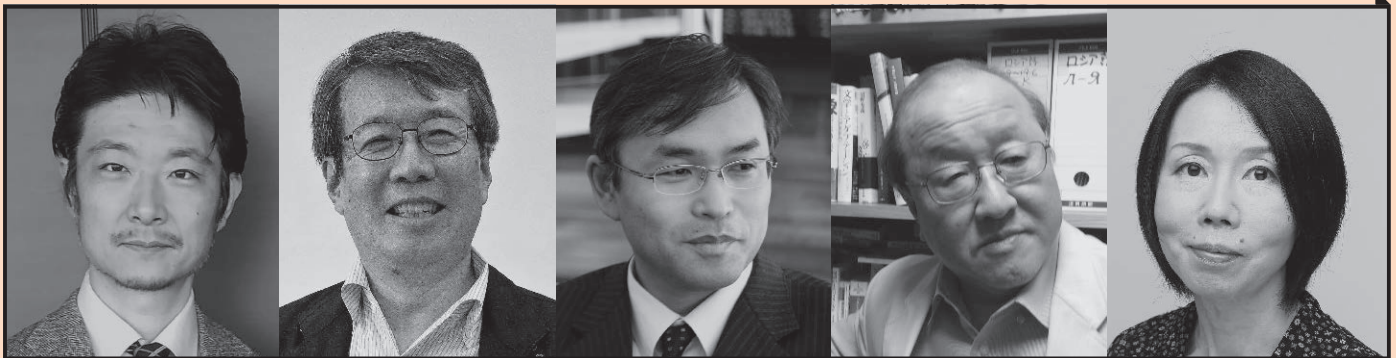
これらの学問分野において、「世界」とは何を意味し、「世界」の観点に立って研究を進めることにはどのような意義があるのでしょうか。「世界」を枠組みとして用いることによって、何が明らかになり、何が問題となるのでしょうか。このシンポジウムでは、それぞれの学問分野で「世界」について真剣に考えている日本の研究者の間で、これらの重要な問いについて意見交換を行い、共同研究の可能性を探ります。これはこの後に開催される予定の外国人研究者を交えたシンポジウムのための予備的作業でもあります。

パネル・ディスカッション

[司会] 伊達 聖伸(総合文化研究科)

[パネリスト] 歴史学：羽田 正(東京カレッジ)／哲学：中島 隆博(東洋文化研究所)

文学：沼野 充義(人文社会系研究科)／宗教学：藤原 聖子(人文社会系研究科)



2019.7.10(水) 東京大学・山上会館大会議室(本郷キャンパス) 16:30 開場 17:00 開演 19:00 閉会

[事前参加登録] <https://bit.ly/2ET9aJQ> 定員:120名(先着順) 言語:日本語(Japanese language only) 主催:東京大学国際高等研究所東京カレッジ
[講演会事務局/Inquiries] tcevent@graffiti97.co.jp

